

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	特定非営利活動法人 環境 ISO 自己宣言相互支援ネットワーク JAPAN（略称：セルフデクル）		
代表者	理事長 清 水 博	担当者	清 水 博
所在地	〒 524-0011 滋賀県守山市今市町 1 3 9 番地 4 TEL: 077-582-7283 FAX: 077-514-9678 E-mail: iso@selfdecl.jp		
設立の経緯 ／沿革	全国津々浦々に環境保全活動の環が広がることを願い、平成 1 3 年 4 月から任意団体として I S O 自己宣言方式による環境管理システムの普及活動を開始したが、状況判断により同年 9 月から法人化に向けて作業を開始し、滋賀県の認証を受け平成 1 4 年 1 月 2 3 日設立した。		
団体の目的 ／事業概要	日本国に住所を有するあらゆる種類・規模の、法人か否か、公的か私的かを問わず、独立の機能及び管理体制をもつ、企業、会社、事業所、官公庁もしくは協会、又はその一部若しくは結合体（組織）に対して環境の保全を図る活動のメリットを啓発するとともに、環境 I S O 1 4 0 0 1 規格への適合の自己宣言方式を普及するための事業を行い、並びに、組織の活動、製品及びサービス（社会福祉事業を含む。）の質の向上を図るための事業を行い、もって公共の利益の増進に寄与すること		
活動・事業実績 （企業の場合は 環境に関する 実績を記入）	I S O 1 4 0 0 1 規格の用語の解説集及び逐条解説を作成しインターネット上で公表 環境審査登録制度に対抗する環境 I S O 自己宣言登録制度を平成 1 4 年 9 月にインターネット上で発表 滋賀県（元）中主町役場他 10 数社に環境 ISO 導入のコンサルティング実施 環境保全活動と業務活動を融合化して管理する環境経営の考え方、合理的な環境マネジメントプログラム作成の手法、法的要求事項特定の手法をインターネット上で公表 「環境への心づかいを深くし」、「コンプライアンス性を確実に」すれば世の中が安穏になるという考えのもと環境経営管理システム自主確立マニュアルと運用管理マニュアルを取りまとめインターネット上で公表 人・組織のあらゆる営みにより著しい環境影響を及ぼす側面を自己宣言方式により管理するセルフデクル構想を検討		
ホームページ	http://www.selfdecl.jp		
設立年月	2 0 0 2 年 1 月 *認証年月日（法人団体のみ）2 0 0 2 年 1 月 1 7 日		
資本金/基本財産 （企業・財団）	0 円	活動事業費／ 売上高（H17）	240,649／174,331 円
組 織	スタッフ／職員数 2 名（内 専従 1 名） 個人会員 1 4 名 法人会員 2 名 その他会員（賛助会員等） 名		

政策のテーマ

洞爺湖サミットにおける日本発の環境理念を提言

■政策の分野

- ・ 循環型社会の構築

■政策の手段

- ・ 国連憲章の改正

団体名：NPO法人 環境ISO自己宣言
相互支援ネットワークJAPN
(略称：セルフデクル)
担当者名：清水 博

■キーワード

煩惱を抑制し

環境への心づかいを深くする

日本のリーダーシップ

① 政策の目的

洞爺湖サミットを機会に、地球温暖化の温床となる地域格差、戦争、地域紛争、テロ行為等諸悪を封じ込める「環境理念」をまとめあげ、国連憲章に盛込むなどを日本が国際社会に提案する。

②背景および現状の問題点

地球温暖化が急速に進む諸悪の根源は人類の発展を正しく導く指針「環境理念」が国際社会に無いことです。

③ 政策の概要

地球環境を痛めつける人・国家のあらゆる煩惱（環境側面）を鎮めなければ生き物は地球に棲めなくなります。これを食い止めるには、人・国家のあらゆる営みが「環境側面」であると気付いてもらい、少しずつ欲望の節制に努めるよう、国連憲章及び各国憲法に環境理念（環境方針）として「地球環境への心づかいを深くして自由、平等、人権などを主張すべき」旨を盛り込み、総合的・有機的に循環型社会を実現していくことが必要です。

- ・ 洞爺湖サミットで次のような趣旨の規範・理念をキャンペーンする。
国民は何人もあらゆるときに、地球環境に思いをめぐらせて企画・行動するよう、
環境への心づかいを注意深くする。
- ・ 環境サミットが今年日本で開催されるのを機会に国連憲章及び各国憲法に環境理念を設定することを提唱する。
- ・ 産油国は利益をオイルマネーだけでなく、地球温暖化防止、循環型社会形成にも振り向けるように提案する。
- ・ 洞爺湖サミットにISO14001環境保全の取組み自己宣言都市の宣言マークパネルセッションを設ける。
- ・ 環境理念を盛込んだ「ISO14001環境保全セルフデカル方式」を国際社会に普及するよう提案する。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

- ・ 洞爺湖サミットに向けて次の趣旨の規範・理念をキャンペーンする。
{国民は何人もあらゆるときに、地球環境に思いをめぐらせて企画・行動するよう、環境への心づかいを注意深くする。}

環境省が検討すること

- ・ 環境サミットが今年日本で開催されるのを機会に国連憲章及び各国憲法に環境理念を設定することを提唱する。

政府が検討すること。

- ・ 産油国は利益をオイルマネーだけでなく、地球温暖化防止、循環型社会形成にも振り向けるように提案する。

サミットでの討議テーマとする

- ・ 洞爺湖サミットにISO14001環境保全の取組み自己宣言都市の宣言マークパネルセッションを設ける。

北海道庁が検討すること

- ・ **環境理念を盛込んだ「ISO14001環境保全セルフデクル方式」**を国際社会に普及啓発する。

日本工業標準調査会が検討すること

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

- ・ 「国民は何人もあらゆるときに、地球環境に思いをめぐらせて企画・行動するよう、環境への心づかいを注意深くする。」旨をキャンペーンする。 環境省が担当する
- ・ 環境サミットが今年日本で開催されるのを機会に国連憲章及び各国憲法に環境理念を設定することを提唱する。 政府が担当する
- ・ 産油国は利益をオイルマネーだけでなく、地球温暖化防止、循環型社会形成にも振り向けるように提案する。 政府がサミットで提案する
- ・ 洞爺湖サミットにISO14001環境保全の取組み自己宣言都市の宣言マークパネルセッションを設ける。 環境自治体の協力を得て北海道庁が担当する
- ・ **環境理念を盛込んだ「ISO14001環境保全セルフデクル方式」**を国際社会に普及啓発する。セルフデクルの協力のもと日本工業標準調査会が担当する

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- ・ 「国民は何人もあらゆるときに、地球環境に思いをめぐらせて企画・行動するよう、環境への心づかいを注意深くする。」 旨をキャンペーンする。
{洞爺湖サミットでの日本発理念の原案になる}
- ・ 環境サミットが今年日本で開催されるのを機会に国連憲章及び各国憲法に環境理念を設定することを提唱する。{リーダーシップを発揮できる}
- ・ 産油国は利益をオイルマネーだけでなく、地球温暖化防止、循環型社会形成にも振り向けるように提案する。{リーダーシップを発揮できる}
- ・ 洞爺湖サミットでISO14001環境保全の取組み自己宣言都市の宣言マークパネルセッションを設ける。{自己宣言都市の意気込みを世界に紹介できる}
- ・ **環境理念を盛込んだ「ISO14001環境保全セルフデクル方式」**を国際社会に普及啓発する。
{全世界の組織に環境理念を浸透させ地球温暖化抑制の力になる}

⑦ その他・特記事項

環境理念キャンペーンの補足：

人間のあらゆる活動によって地球はじわじわと蝕まれています。
これを食い止めるために常に謙虚でなければなりません。

例えば、何かのイベントを開催する場合などで、1割経費を少なくすることを心がければ、そのイベントで発生する環境負荷を1割少なくすることができる計算です。
また、地方行政機関では地方自治法などの条文解釈を正しく条例化することにより、行財政改革を進めることができます。

大食い女をテレビ放映してもてはやするのが社会にどんな益をもたらすのでしょうか。
環境のことを考えずに、自由、平等、人権などを主張しすぎることも結果的に地球を痛めつけることにつながっています。

結果として莫大な環境負荷の発生を抑制できます。
常に、人間の一つ一つの営みに環境への心づかいを深くすることが大切です。

「環境」が基本権と同等に扱われることを望み、憲法改正が行われることを願っています。
「環境」の理念は構造改革・行財政改革推進の力にしたいものです。